

生徒会テーマ：感謝 ～「ありがとう」で溢れる学校へ～
「いじめ」について、共に考えましょう。

10月26日（金）、長崎新聞の一面に大きく右の記事が掲載されていました。

2017年度に認知したいじめの件数は41万件とのことです。昨年度より9万件増加したことで、文科省は「早期対応に向け軽微なものも含める方針が浸透し、積極把握が進んだ」と分析しています。

「いじめ」の定義は、平成25年度に成立した「いじめ防止対策推進法」の施行に伴い、以下のとおりになっています。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。



さて、いじめの問題は複雑多岐にわたってきました。だれが見てもあからさまにいじめと思われるものもあれば、これぐらいでと首をかしげるものもあります。しかし「児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」であれば、「いじめ」と判断されます。

昭和から平成の時代に移り、社会情勢の大きな変化の中、日常の生活の様相も大きく様変わりし、それに応じて子どもも大人も変わりました。特に、情報機器の目覚ましい発達により、面と向かっての会話することより、文字や写真の表現で情報交換することが多くなりました。便利さの反面目に見えない世界が幅を利かせるようになったと思います。一つの言葉の受け取り方で相手の対応が変わることも多いのではないのでしょうか。面と向かっての会話であればその声色や態度から相手が何を考えているか読み取れます。しかし、文字盤だけであれば、その微妙なニュアンスを感じるのが難しくなります。代表的な例が、SNS（LINE、Twitterなど）と思われます。もちろん使い方次第ですが、ここ数年の事案や事件を顧みると、陰湿ないじめとともに犯罪に巻き込まれる率も増えてきたと思われます。中には、いじめを受けた人がSNS上で友人らに相談したことをきっかけに、その友人らがSNSを使い、いじめをした人をいじめるといふ、いじめがいじめを生むという負の連鎖も生じてきました。ひと昔前の常識が通じない社会になったように感じます。

右の記事も、長崎新聞（10月26日）からの抜粋です。保護者が気が付かない中で進む「いじめ」。気が付いたときにはもう取り返しがつかないことになっていてたでは済まされません。

悩み相談室などの関係機関での対応も進んでいますが、その前に食い止めたいものです。「いじめ根絶」に向けては、以前から市内小中学校において取り組まれています。しかし、人間の心は弱いもので、理屈なしで人を好き嫌いとは区別しますし、妬みや嫉みなどの感情がでてきます。それがいじめに繋がります。ですが、人間が動物と異なるのは理性があります。「こんなことをしたら（いったら）こうなるからやめよう」という判断ができるという点です。

そのような判断ができるように、本校では、道徳の授業や様々な学校行事をとおして、心を鍛えて理性で物事を判断できるように取り組んでいます。心を育めば、自分のことのように相手のことも思いやれるものと信じています。まだまだ不十分な点が多いですが、一朝一夕ではできないことですので、地道ながらも堅実に推進していきたいと考えています。保護者の皆様や地域の皆様と共に考え歩んでいきたいと思いますので、お力添えをよろしくお願いいたします。

歯止め利かず 静かに激化

深刻さ増す SNS いじめ

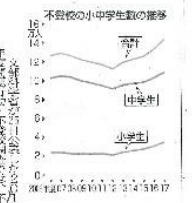


「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及に伴い、いじめの手段も変化しています。特に、SNSを利用したいじめが深刻化しています。匿名性が高く、被害者の特定が難しく、被害の拡大が速いという特徴があります。また、SNS上のいじめは、現実世界でのいじめと連動しているケースも多く見られます。」

中2自殺遺族「当時は気付かなかった」

「当時、SNS上のいじめが深刻化していたにもかかわらず、気付くことができませんでした。子供が自殺したことで、後から振り返ると、SNS上のいじめの兆候がいくつかあったように思います。しかし、当時はそれがいじめだと認識することができませんでした。」

不登校の小中学生14万人超 過去最多



「不登校の小中学生の数は、過去最多を記録しました。これは、いじめの深刻化やSNSの影響などが要因の一つと考えられています。学校側や保護者側は、いじめの早期発見と対応が求められています。」

《保護者の皆様へお願い》

SNS（LINEなど）の情報通信機器・インターネットの活用については、学校でも指導をしているところです。しかしながら、その怖さが実感できずに何も考えずにアップロードすることがあるようです。流された情報は世界中に広まりますし、消えることはまずないと言われていています。時には、以前の情報が今になって問題となる場合も出てきています。非常に怖いケースです。

このことは、保護者の皆様の活用にも関係してきます。学校行事での写真をあげるとそこには自分の子ども以外の子どもも映っています。また、何かのトラブルでつぶやいたり、写真を掲載すると、多くの見知らぬ人々の目に触れます。とても便利な機器ですが安易な取り扱いが、大きな災いを招くことにもなりかねませんので、慎重な活用をお願いします。



〒859-3244 佐世保市江上町8-1-4番地 Tel.0956(58)3937 FAX0956(58)5413
<http://www.city.sasebo.ed.jp/jh-tohmei/asp/default.asp>
 e-mail: tohmeijh@city.sasebo.ed.jp

